



N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1152

13.04.2025 (136)

悪の天才の教育

ゲルハルト・ラウク著

パート18

余波： アメリカにおける犯罪と起訴

しかし、それだけではない！アメリカに戻ると、アメリカ政府は私を “有罪判決を受けた重罪人” と決めつけ、刑務所に入れようとする！

1976年にドイツで思想犯として有罪判決を受けた後、私は米国の弁護士に、これが米国で法的な影響を及ぼすかどうか尋ねた。私はノーと言われた。第一に、それは外国での有罪判決だった。第二に、それは憲法修正第1条の下で明確に保護されている活動に対するものだった。その後、私は何の問題もなく銃の所持許可を取得した。

1999年にアメリカに戻ったときには、古い銃の所持許可証は失効していた。そこで私は新しい申請書に記入した。

私が『有罪判決を受けた重罪犯』であるかどうかを問う質問を読んだとき、弁護士の言葉を思い出した。しかし、やはり不安だった。「解釈」は時代とともに変わりうるし、変わることもある。それでも、これは原則の問題だった。

私の立場は（今も）こうだ：政治犯に“確信犯”と言うのは、レイプ被害者に“ふしだらな女”と言うようなものだ。言語道断だ！不名誉なことだ！偽証罪で起訴され、投獄されるという脅しのもとで、政府が被害者自身の名誉を傷つけることを要求するのであれば、なおさらだ！

私はその質問に「ノー！」と答えた。

次に起こったことはこうだ。

1999年春。アメリカ連邦政府は、私がアメリカで合法的に新聞を発行していたという「ドイツの前科」だけを根拠に、私を「有罪判決を受けた重罪人」とであると宣言した！私は法的対抗措置を開始した。アメリカ自由人権協会（ACLU）がこの訴訟を受理。

1999年7月30日地元の裁判所は、私の銃所持許可申請却下に対する控訴を棄却したが、憲法修正第1条の問題は未解決のままにしておいた。警察の法律顧問は、7月31日付の地元紙の一面記事で、この件は連邦最高裁判所に持ち込まれる可能性がある、と引用されている。

数年後、連邦最高裁で別の裁判が行われた。それは肯定的な意味でこの問題に「決着」をつけた。しかし、だからといって二度と同じことが起こらないとは限らない。さらに、いずれにせよ「偽証罪」が問われるかもしれない！

1999年8月17日ACLUはランカスター郡地方裁判所と財務省の両方に上訴した。

1999年10月15日地裁は詭弁を弄して私の控訴を棄却。驚くべきことに、翌週になるまで私も弁護士もそのことを知らされていなかった。ACLUの弁護士は別の控訴の準備を始める。

1999年11月4日。逮捕状が出ていることを知り、私はリンカーン警察に出頭した。私はドイツでの思想犯「前科」を公表しなかったとして、「偽証罪」の第4級重罪（懲役5年、罰金1万ドル）で正式に起訴された。私は同日保釈された。

1999年11月8日。 リンカーン・ジャーナル・スター紙は社説で、憲法上の問題が十分に解明される前に刑事告発を行なった地元当局を「積極的すぎる」と批判。

2001年12月4日。 起訴から25ヵ月後、私の裁判は1時間足らずで始まり、起訴棄却で終わった。

重要なことこの事件は技術的な理由で却下されたに過ぎない。憲法修正第1条に基づくものではありません！

この“犯罪”はドイツの法律では“軽犯罪”であり、市民権を失うものではない。（ネブラスカ州警察は後に、この詭弁を回避するために申請書の文言を変更した。したがって、「偽証罪」による有罪判決は現在でもあり得るのだ！）

検察は2万ドルの税金で、米司法省の特別検察局で働いた経歴を持つ、法律翻訳の専門家を空輸した。その専門は「ナチス戦犯」である。一時期、そのトップはアメリカとイスラエルの二重国籍者で、同時にイスラエルの保安官でもあった！

この“専門家”は重罪と軽罪を明確に区別できなかった！ドイツの法律と言語に関する私の知識だけが、弁護側がこれを見抜くことを可能にした。そして私たちは「専門家」にその点を認めさせた。これは私の弁護にとって極めて重要なことだった。そうでなければ、有罪判決が下され、連邦最高裁判所まで上告され、おそらくは刑務所行き（！）という結果になっていただろう！

この事件は「民事」ではなく「刑事」だから、ACLUは私を弁護できなかった。私には国選弁護人がいた。私はこの詭弁を自分で見つけなければならなかった。そして、彼がこの点が有効であるとは同意する前に、私は彼に何度もそれを言わなければならなかった。

我々全員への脅威

次のようなシナリオを想像してみたい。

アメリカ政府は、あなたが「有罪判決を受けた重罪人」であるという理

由で、投票権や銃器の所持権を否定する。何年も前に外国で、モスリムの国でキリスト教の聖書を所持していたような理由で、軽犯罪で有罪判決を受けたからだ！

あるいは、外国政府があなたの米国を拠点とするウェブサイトを気に入らず、管轄権を主張し、あなたを思想犯罪で「有罪」にするからだ！

そうそう、銃の許可申請で「重罪の前科」を明かさなかったから、「偽証罪」で逮捕・起訴されるんだ！

これはあなたにも起こりうることだ！私自身のケースがそれを証明している！法的には、これらのケースも私のケースと変わらない。

これを最近の『ビッグ・ブラザー』の暴露と組み合わせると、かなり恐ろしいシナリオが見えてくる！

第8章

ニュー・ミレニアム

アメリカに戻った後、私は不在中に進展があったことに満足していた。だから、私は引き続き仕事を任せ、多くの時間を他のことに費やした。

そのひとつが指導だった。私はこれに大きな個人的満足感を覚えた。この年代の若者たちは、私よりもずっと賢かった。彼らの何人かは、私よりもずっと多くのことを成し遂げるに違いない。私が彼らの成長に貢献できたかもしれないことは、後世へのささやかな贈り物である。

やがて、小型のニュースレターがタブロイド紙に取って代わった。その後、ウェブサイトがニュースレターに取って代わった。一方、書籍の出版は存続し、さらに大きく拡大した。大不況に見舞われる直前のピーク時には、1年間に約100タイトルの新刊を出版した。

60,000,000のウェブサイト・ヒット

私が（2000年1月に）初めて作成し、管理したウェブサイトは、私たちの組織のためのものだった。

当初は、この分野に入る気はまったくなかった。技術的なことや機械的なことにはほとんど適性がない。でも、他のボランティアがボールを落としてしまったので、私が入ることになった。好き嫌いは別としてね。

そこで私はしぶしぶ、この分野で最低限の技術を身につける方法を調べ始めた。

私の最初のウェブサイトは、1年目に200万ヒットを超え、2年目には1,000万ヒット、3年目には2,000万ヒットを記録した！数年後には年間6,000万ヒットを記録した！

この膨大な量を考えると、帯域幅はすぐに大きなコスト問題になった。そこで私たちはすぐに「ウェブサイトの再販業者」になった。そうすることで、サーバーから卸売り価格を得ることができた。私たちはウェブサイト・アカウントを大量に購入し、いくつかを再販し、いくつかを寄付し、残りを実験用に使用しました。

数年後、アメリカの3大サーバーの1つから、私たちは世界でもトップ10に入るウェブサイト再販業者だと言われた！

もちろん、私が最初にこのウェブサイトを作ったとき、熟練者たちはこのウェブサイトを見下した。デザインが地味でシンプルすぎた。飾り気がない。明らかにアマチュアの仕事だった。

その通り。アマチュアの仕事だった。一般的に認められている基準からすれば型破りだった。しかし、うまくいった！

このデザインには4つの理由があった：

まず、コンピュータの達人や従来のウェブサイト・デザイナーとは対照的な、ダイレクト・マーケッターとしての私のアプローチについて。

今日、よくある間違いは、ウェブサイトの制作やメンテナンスをコンピュータの達人やウェブデザイナーに任せてしまうことだ。その結果、芸術作品のようなウェブサイトができあがってしまうのです。

最悪なのは、このドードーがしばしば修正されないことだ。ウェブサイトが素晴らしく見えるので、誰もその欠陥に気づかない！美しい女性が、実際は連続殺人犯であるようなものだ。ほとんどのウェブサイト・デザイナーは「芸術家」である。ダイレクトマーケティング担当者のような「科学者」ではない。こんな風に考えてみよう：ゴッホは偉大な画家だったが、あなたは彼に橋の建設を依頼しただろうか？

2つ目は、検索エンジン最適化（SEO）に関する研究だ。

第三に、タブロイド紙やその他の媒体でうまく機能していた手法の単純

化と標準化である。

4つ目は、私たちスタッフのコンピュータースキルが非常に低いこと。(一般的に、コンピューターオタクは最新のハイテクおもちゃで遊びたがる。退屈な」仕事はしたくないのだ)

私たちはコンピューター・アニメーション・プログラムに大金を費やした。そしてプロのアーティストを雇い、世界中の有名な政治家の顔を描いてもらった。それを使って、彼らをからかうコンピューターアニメーションを作った。その中には、非合法的な反体制派の歌を歌う国家元首も含まれていた。

ある時期、私たちはウェブサイト用に毎日2つの新しいアニメーションを作っていた。2つの主要言語それぞれに1つずつだ。

これは、もっと野心的なプロジェクトの第一段階に過ぎない予定だった。残念ながら、後に棚上げされた。今でもその棚で埃をかぶっている。しかし、ゴミ箱には入っていない。

私はSEOコンサルタントを雇った。

いつものように自分で仕事をするためではない。私を訓練するためだ。そうすれば、将来は自分でこの仕事をこなせるようになる。

そして、数十のウェブサイトを立ち上げ、50の検索キーワードで実験した。毎日、ひとつひとつのグーグルの順位を追跡し、記録した。これを何カ月も続けた。その結果、ほとんどの検索語が1ページ目に表示され、中には1位になったものもあった。

より大規模で重要ないくつかのウェブサイトの場合、ウェブサイトの統計を毎日モニターした。その後、私はそれらの数字を記録し、収益と比較し、比率を分析し、トラフィックと収益の伸びを予測した。

インターネットはある意味で通信販売に似ている。ただし、小数点以下の桁が数スペース移動したことを除いては。通販では、小数点の右側に3桁か4桁しか行かないことに慣れていた。しかし、インターネットでは6桁だった。

最大の問題は質だ。インターネットは覗き見主義のメディアである。インターネット以前の時代には、購読者は紙媒体の出版物と感情的なつながりを持っていた。それがボランティア活動や寄付という具体的な支援につながった。これは悲しいかな、サイバー世界には欠けている。

ヒトラーは『我が闘争』の中でこう述べている：プロパガンダの目的は信者を獲得することである。信者の目的はプロパガンダを作ることであ

る。

しかしインターネットでは、自由な自己満足が支配している。フォーラムで議論したり、扇動的なコメントを投稿したりするのは時間と労力の無駄だ。話し言葉の方が、できれば面と向かって話す方が、はるかに効果的なのだ。ウェブサイトのトラフィックと伝統的な紙媒体の通販の両方を注意深く測定・分析した実践的な経験から、私はこのことを確信している。

古巣は準備万端

1972年にNSDAP/AOが誕生してから30年後、運動の「合法部門」が「非合法部門」に取って代わった。半合法的なフロントグループと合法的な文献が、地下組織と非合法的な文献に取って代わった。この発展にはインターネットも大きな役割を果たした。

海外基地は二次的な支援業務にシフトした。現役から予備役への移行に似ているが、私たちは通常の兵役の兵士とは対照的に「政治的兵士」である。

おそらく政府の弾圧によって、いつか運動は旧式の地下抵抗に戻らざるを得なくなるだろう。もしそうなら、自由の敵は、われわれの古参兵が“黒目”をさらすことを厭わないし、できることに気づくだろう。しかし、我々は「首を切る」ことはしない。我々は非暴力を貫く。

おそらく遠い将来、そう遠くない将来のある時点で、旧国は、願わくばすべての国が、再び真に自由な選挙を行うようになるだろう。そうなれば、暴君が倒れるのは時間の問題だ。自由な国は正義を貫くことができる。正義も復讐も、私たちの任務の範疇にはない。

必要であれば、反体制派は再び戦術を転換する。後方の部隊は前線に戻る。予備役が現役に呼び戻される。

私は彼らの側に立つことを許されることを光栄に思う！

